

## 心育む講座 9月25日

### 佐藤恭子先生から小国中生へ

#### プラスのストローク & Iメッセージ

##### コミュニケーションの基本

自分を大切に。相手も大切に。周りに人にも嫌な感じを与えない。

そのために

##### プラスのストロークを大切にしよう。

- 相手が心地よさを感じる働きかけ
- 相手に元気を与える
- 人間関係を良くする

##### ストロークのプーメラン効果

プラスのストロークは、他人に与えれば与えるほど自分に返ってくる。プラスのストロークをお互いに与え合ひましょう。

##### ●もしかしたら・・・

自分で気づかないうちに、あなたの言葉がけや、態度、言葉遣いが相手の心の栄養を奪っていませんか・・・

##### 自分の思いの伝え方・・・Iメッセージ

「私」を主語にして気持ちを伝えるメッセージ。相手も自分も大切に伝える伝え方です。

- 「私は・・・。」自分の思いや気持ちを伝える。
- 相手を責めることはない。

##### 例えば

- 「私困ってるんだけど・・・。」
- 「私は～して欲しいと持っている。」
- 「～してくれると私はうれしいんだけど。」

##### ストロークとは？

- 他人に対する態度の表現
- 相手の存在を認めてする働きかけ

例えば

あいさつ、笑顔、握手  
思いやり ほめる 感謝

##### ストロークは心の栄養

- プラスのストロークをたくさんもらうと人は元気になる。
- もらったストロークは心の貯金。いっぱい貯めるとストレスにも耐えられる。

##### こんな伝え方になっていませんか

- 非主張的な自己表現
  - ・言いたいことをはっきり言わない。
  - ・相手を大切にしながら、自分を大切にしない。
- 攻撃的な自己表現
  - ・強く自分の考えだけを主張する。
  - ・自分を大切にしながら、相手を大切にしない。



9月25日(月)、小国中学校体育館に於いて、臨床心理士・佐藤恭子氏を講師に、「こころ育む講座」が開催された。中学生の時期は、とかく友達関係で不安や悩みを抱える生徒が多い。コミュニケーションのための基本を身につけ、より良く人との関わりを作り、自立した生活がおくれるよう成長して欲しいという願いから実施されたものである。

講座の中で、佐藤氏は、「自分も相手も大切にして、周りの人に嫌なおもいをさせないことがコミュニケーションの基本である。」とし、相手を元気にする「プラスのストローク」を大切にすること、相手を大切にしながら自分の思いや考えを伝える「Iメッセージ」等を提唱した。生徒達は熱心に耳を傾けていた。

同講座は10月5日(木)、Part 2が実施される予定である。

## 1 年生国語授業

# 小国小で読み聞かせ



9月27日(水)、本校1年生が国語の授業の一環として、小国小学校を訪問し、読み聞かせを行った。読み聞かせの題材にする本を理由や根拠を説明しながら話し合い、決定し、表現の工夫をしながら練習し、本番を迎えた。緊張しながらも笑顔で堂々と発表する様子は、小学生の良き手本となった。小国中では、地域の方々が読書サポーターとして読み聞かせの活動を行っており、その姿も1年生の良い手本となったようである。読書は、知識を豊富にしてくれるだけでなく、心を豊かに生活に潤いをもたらしてくれるものである。この活動を通して、小国中生はもちろん、小国小学校の児童がさらに読書に親しむきっかけになってほしいものである。

読み聞かせに参加した貝沼和哉君は感想を次のようにまとめている。

『本を読んでいるとき、面白い場面ですごく笑ってくれて嬉しかったです。静かに聞いてくれたのも嬉しく思いました。自分ではあまり緊張せずに、はきはき進行できて良かったと思います。感想発表では、1人しか手が上がらなかったけど、詳しい感想を言ってくれてすごいなと思いました。これからも読み聞かせをしてみたいと思いました。』



## 西置賜地区新人体育大会

# 熱い応援を受けて新人躍動



### 置賜地区中学校新人体育大会 (9.30~10.1)

《団体種目》

優勝 剣道男子、女子バドミントン  
第3位 野球部 バレーボール女子 バレーボール男子 水泳男子総合

《個人》

剣道男子個人 優勝 佐藤 優 第3位 小野隼太郎 ベスト8 宇津木拓海  
剣道女子個人 ベスト8 遠藤 日和  
バドミントン女子ダブルス 優勝 齋藤 和花、瀬齊さくら 第2位 小池 真美、森 愛和  
バドミントン女子シングルス 第2位 齋藤 梨甫  
水泳男子 200M自由・200M個人メド 優勝 50M自由 第2位 今野 優希  
100M自由・50M自由 優勝 舟山 京佑  
柔道男子階級別個人戦 第2位 後藤 拓真 第2位 加藤 天星  
ソフトテニス女子個人 第3位 石塚 愛、大久保 南美  
卓球男子 ベスト8 益田 凌汰、菊竹 桜

## 沙雪ちゃんの赤いマフラー 心も体もほっこり



10月5日(木)、伊藤沙雪さん(2年4組)が本紙編集室を訪れ、生活単元の時間を利用して製作したマフラーを、八木幸夫編集長に披露した。およそ1ヶ月をかけ、こつこつと作業を積み重ね完成した作品である。沙雪さんはこれまでも、水色の毛糸を使ったマフラーを製作し、おばあちゃんにプレゼントするなど、編み物に取り組んできた。その学習の成果もあり、この度の作品は短期間で仕上げる事ができた。「しっかりとしたものができるか心配しながら始めたが、こつこつと丁寧に作業を進め、作業がどんどん速くなりました。素晴らしい成長ぶりです。」新野 忍教諭は、手放しでその成長ぶりを賞賛していた。マフラーを試着した八木幸夫編集長は「沙雪さんの思いがこもっているのです、首もとだけでなく、心まで温かくなるマフラーだ。」と作品の感想を述べた。

小国中では、美術、技術家庭科、総合的な学習等で様々な製作活動が行われている。ていねいにこつこつと努力を重ねることで、作品にその人の思いが込められるようになる。そして、その作品は、見る者に、身につける者に、使う者に、作った人の思いを伝えてくれるものである。文化祭には小国中生の様々な作品が展示される予定である。思いのこもった作品を期待したい。



## 美術作品展示 山形銀行小国支店

# 学習の成果を地域に発信



10月12日（木）からおよそ2週間の予定で、山形銀行小国支店（布施和宏支店長）を会場に美術科の授業で製作した作品が展示されている。学校で学習した成果を広く地域の皆さんに公開することを目的に行われている。展示されているのは1年生の粘土細工作品19点と1年生～3年生の絵画4点である。1年生の粘土細工は、紙粘土に着色し、自分が好みのスイーツを成形したものである。製作の過程で、菓子職人である柴田伸也氏（菓子工房しばた店主）の直接指導を受けながら、熱心に製作に取り組んだ。絵画は小国町の風景を題材にした作品である。

展示は山形銀行小国支店の協力を得て行われている。同店を訪れた多くの地域の方々が、小国中生の力作を熱心に眺めていた。小国中では、今後も生徒作品を町内各所で展示、披露したい考えである。

### 展示作品出品者

（敬称省略）

#### 【1年粘土細工】

貝沼和哉	酒井一穂	佐藤風馬
渡部瑠夏	青木蒼空	岩田晏依
遠藤日和	小川あかね	高井莉々果
高野桃華	加藤蒼生	佐藤琢郎
傳 涼馬	前田友也	井上美緒
瀬齊さくら	原田実花子	三島木蘭夢
【1年絵画】	青木蒼空	
【2年絵画】	佐藤元輝	
【3年絵画】	繁村怜奈	渡部瑞葵

# 小国中 NEWS

平成29年10月20日

発行 小国中学校内

ヤギ明々プレス社

PIXTA.JP - 21616890

## 地域で学ぶ体験学習 キャリアスタートウィーク



10月10日（火）から12日（木）の3日間にわたって、小国中の2年生76名が町内35カ所の協力事業所で、キャリアスタートウィーク（職場体験学習）に取り組んだ。この取り組みは、小国町が推進する小中高一貫教育の柱の一つとして位置づけられているキャリア教育（生き方や進路について考え、学ぶ学習）の一環として、叶水中学校の2年生も参加して毎年実施されている。昨年度までは5日間の日程で実施されていたが、今年度からは3日間に期間を短縮しての実施となった。

中学生の時期は、多くの体験を通して、様々な価値観や考え方に触れ、適切な勤労観や職業観を身につけていかなければならない時期です。また、社会の一員として、自立した生活ができるようになるための社会性を身につけていくことも大切な時期である。2年生は、1年生時に家業体験、職業講話を中心とした「働くこと」について考えたり、学ぶ学習を行った。その系統的、継続的な学習として、この学習が位置づけられている。

生徒達は、それぞれの事業所での勤労体験を通して、働くことのつらさと喜び、社会人として求められる自覚や態度、あいさつ、返事、会釈、言葉遣いなどの社会常識、マナー等多くのことを学んだ。今後、受験や職業の選択などを含め、将来の自分自身の生き方を考えるとともに、中学生としての今、どのような生活をおくるべきなのかを考える良いきっかけとなった。



# 小国中 NEWS

平成29年10月23日

発行 小国中学校内

ヤギ明々プレス社

pixta.jp - 21616890

## PTA 母親委員会主催

# 自分で作る弁当の日



10月23日(月)PTA母親委員会(寒河江夕子委員長 委員6名)主催の「自分で作る弁当の日」が実施された。材料の準備、調理、盛り付けまでを生徒自身が自分でやり、弁当を作り上げる「自分でやる」経験を通して、自立する心を養うとともに、献立を話し合ったり、調理の仕方を相談するなど、家庭内のふれあいや絆を深めることを目的に初めて実施された。母親委員会では、母親委員会だよりを通じて、ねらいや具体的な取り組み方、弁当のづくりのポイントなどを紹介した。また、10月10日(火)の全校朝会のおりに、寒河江委員長が全校生徒に弁当づくりを呼びかけるなど、精力的に取り組んできた。

当日は、昼食時間に合わせて、安部康之PTA会長、寒河江夕子委員長のほか3名の母親委員が各教室を訪れ、生徒達の弁当会食の様子を見守った。生徒の中には、大人顔負けのキャラ弁を作った生徒や、手の込んだ料理を詰め込んだ高級弁当を作った生徒などもおり、自分の手作り弁当を互いに見せ合いながら、楽しい会食の時間となった。

母親委員会では、弁当づくりの感想などをまとめたレポートを提出してもらい、11月4日の文化祭に掲示する予定である。

## 柿崎校長先生からの NEWS LETTER

### 小国高校生のがんばり

小国高校の柿崎悦子校長が小国中生に向けたニュースレターを作成し、小国中生に届けている。タイトルの「Boys and Girls be ambitious!」は「少年、少女達よ、大志を抱け」というところだろうか・・・。

様々な分野で、希望実現に向けて努力する小国高校生の姿を伝えながら、小国中生にも大きな希望を抱いて小国高校に進学してきて欲しいという願いが込められている。

9月27日発行の第1号では、山形大学工学部での研究活動に参加した内藤さららさん(2年)、舟山和真さん(2年)の体験談が紹介されている。

10月26日発行の第2号では、山形大学人文学部アカデミックキャンプに参加した遠藤彩希さん(1年)、永井珠莉さん(1年)、山形大学工学部アカデミックキャンプに参加した渡邊佑真さん(1年)の体験談が紹介されている。

それぞれ、工学部や人文学部での体験を通して、将来の自分の進路への意識を高めた様子が伝わってくる。自ら挑戦する姿勢が素晴らしい。

山形県立小国高等学校

### Boys and Girls be ambitious! 小国高校ニュースレター for 後輩

今月のテーマ: **夏休み 大学**でいろんな体験してきました!!

**秋**と云えば、『楽の秋』『運動の秋』『読書の秋』…。中学生のみなさんは、どんな秋にしたいと思っていますか?

2学期が始まり、3年生のみなさんは、夏休み中の進路面談をうけて、これからのことをいろいろ考え、勉強に熱が入っていることと思います。1・2年生のみなさんも、学習や部活動に取り組みながら、将来の夢に向かって進んでいるのではないのでしょうか。

小国高校生の夏は、夏期講習などの学習や部活動の練習や大会などで大忙しでした。その中で、将来のことを考える一つの機会として、大学での研究活動や、大学主催の夏まわりに参加した先輩たちがたくさんいます。今回は、その先輩の声を集めてみました。



山形大学工学部  
アカデミックキャンプ

#### 参加した活動(大学関係)

- ◆ 山形大学工学部 研究活動
- ◆ 山形大学人文社会科学部 アカデミックキャンプ
- ◆ 山形大学人文社会科学部説明会
- ◆ 山形大学工学部 アカデミックキャンプ
- ◆ 各大学オープンキャンパス など

2017/09/27  
01号

#### 山形大学工学部での研究活動

2年 内藤さららさん  
研究テーマ『香水の成分とその結果』

私は、夏休み中の5日間、山形大学工学部で研究をしてきました。香水の成分分析と、フルーツのフレーバーを使用して、自分なりの香りづくりを行いました。初めて見る機械や道具がたくさんあり、とても驚きました。大学生がとても優しく教えてくれて、楽しく活動することができました。将来、入学したい大学はまだ決まっていませんが、勉強を続けていきたいと思います。

2年 舟山和真さん  
研究テーマ『MMDAgentによる音声システムの構築』

工学部での研究活動で、人と対話するMMDエージェントというソフト(プログラム)を実際に動かしました。その中で難しいと感じたことは、プログラムを一字でも間違えてしまうと、何も反応してくれないことです。訂正箇所を探して入力し直して、正しく動くようにするには、時間と根気が必要でした。この研究活動で、集中力が身についたと思います。これからも、このような機会があれば挑戦したいと思っています。

研究テーマ... 活動の様子はこちらにアップされる予定です!

Edited by the Principal of Oguni HS

大学進学と言われると、いわゆる進学校を思い浮かべがちであるが、小国高校からも毎年4年制大学に進学する先輩達がいる。少人数の学校の良さを生かし、先生方の細やかな学習支援を受けるとともに、町の白い森学習支援センターのバックアップを受け、努力を継続した成果である。

柿崎校長はなかなか知られる機会の少ない小国高校生の活躍や努力する姿を、小国中生に伝えようとしている。これからも、先輩達の努力する姿や、活躍の様子をニュースレターとして届けてくれるだろう。楽しみに待ちたい。そして、タイトルに込められたあたたかな思いと熱い期待に思いをはせたい。

## Boys and Girls be ambitious!

ヤギ明々プレス社では、柿崎校長から届けられるニュースレターを増刷し、全校生徒に配布していく。本来カラー印刷であるが、予算の都合で白黒印刷での配布となることをご容赦願いたい。